

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺  
住職 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

5月号

(第140号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



## 住職 法話

### 無明煩惱われらが身にみちみちて

五劫思惟之撰受  
重誓名声聞十方  
五劫これを思惟して撰受す。重ねて誓ふらくは、名声十方に聞えんと。

「現代語訳」  
五劫もの長い間思惟してこの誓願を選び取り、名号をすべての世界に聞こえさせようと重ねて誓われたのである。

「重誓名声聞十方」の句は、前号の『重誓偈』の内容になります。

ここで、「五劫」という言葉が出てきます。「寿限無寿限無、五劫の擦り切れ」で始まる有名な落語の「寿限無」にも出てきます。劫という極めて長い時間をさす、インドの時間の単位があります。これは、百年に一度だけ、天女が降りてきて、四十里四方といわれるとてつもなく大きな岩を衣でなでることを繰り返していき、岩が無くなった時が一劫という時間です。こ

れを五回繰り返されたのが五劫という長さです。

法蔵菩薩は、それほど長い時間をかけて、心で深く考えられて願いを述べられたということです。苦しみ悩む私たちを救うための法蔵菩薩のご苦勞を、計り知れない天文学的な時間の長さで表されています。「重誓偈」では、

わたしは限りなくいつまでも、大いなる恵みの主となり、力もなく苦しんでいるものをひろく救うことができないうようなら、誓って仏にはならない。

と言われ、身近なものだけが救われるのではない、いかなるものすべてが救われるといふことを、極めて長い時間をかけて深く考えをめぐらせて願ひ誓われたのです。

「こうなつてほしい」とか、人にも「願ひ」というものが必ずあります。生きていく間の願ひであれば考えを回らすことは可能ですが、死後のこととなるとそれは別のような気がします。これは、本号の「仏事のイロハ」にも、お墓

を例に、末本先生がふれておられます。

「お墓はこうしてほしい」とか、死後のことをあまり押しつけると、子どもたちが困るかもしれません。

と言われているところです。近年の様々な社会問題を抱える中で、終活という言葉も生まれるくらい、死後の事を考えることが一般的になってきています。後のものに迷惑をかけたくないという思いもあるのでしょう。そう考えることは大切ですが、少し立ち止まってみてください。人間の「こうしてほしい」は願ひではなく欲です。

法蔵菩薩でさえ、五劫ともいわれる長い間の思惟をもつて、すべてのものが救われるための願ひを建てられ誓いをおこされたのです。後のものへ単に欲の押しつけでは、せっかくの終活が無駄になつてしまします。五劫とまではいかなくとも慎重な活動を心がけたいものです。

題は、親鸞さまの『一念多念証文』から頂きました。

# 浄土真宗 新 仏事のイロハ

## 三、お墓と納骨

―亡き人を偲ぶ縁として―

### 「俱会一処の世界」

お墓には夫とともに先妻が：

ご主人を亡くされたある女性が、こんな胸の内を明かしてくれました。

「私も年をとり、時どき死んでからのことを考えるんです。お墓には主人と先妻さんがすでに入っていますので、私が死んでも、せっかく仲良くしている所へ行くのは邪魔するようで、気が進みません。それで別にお墓を建ててもらおうかとも思っています…」と、こうです。

また、ある新聞によると「姑さんと一緒のお墓に入るのはいや」と答えた嫁もいたとか。これでは、お墓は俗世の感情がそのままぶつかり合う所になってしまいます。しかも、

死後、あんな狭い所に大勢の故人がそれぞれの思いを抱きながら閉じ込められるとなると、たまったものではありません。

しかし、これもご安心ください。お念仏の信心をいただいておればお墓の中に拘束されることなく、広大な浄土に生まれさせていただけるのですから―。その浄土はまた「俱会一処」の世界であり、一人ひとりが仏として互いに敬い合い、心を通わせる世界です。男とか女とかの区別もなく、いのちそのものが躍動し合う世界なのです。心の隅々まで通じ合える関係なのですから、気兼ねやわ



だかまり、不信、不満が生じる余地はありません。先妻とか後妻とか、嫁姑とかいったこだわりもないということですよ。いずれの方がたも手に手を取り合い、こだわり続ける私たち凡夫に向かって、阿弥陀さまの真実の救いを説いてくださる仏さまなのです。

ですから、気兼ねしたり、片意地を張ったりせず、私自身が仏法を聞いて信心をいただき、浄土に生まれさせていたたく身になることが肝心でしょう。

また「お墓はこうしてほしい」とか、死後のことをあまり押しつけると、子どもたちが困るかもしれません。それよりも今、しなければならぬのは、身をもって仏法を伝えることです。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



## 年忌法要表

1周忌	2022(令和 4)年	23回忌	2001(平成13)年
3回忌	2021(令和 3)年	25回忌	1999(平成11)年
7回忌	2017(平成29)年	27回忌	1997(平成 9)年
13回忌	2011(平成23)年	33回忌	1991(平成 3)年
17回忌	2007(平成19)年	50回忌	1974(昭和49)年

## 編集後記

五月二十一日、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要御満座(最終日)に寺族で本山参拝してきました。先の伝灯奉告法要、以来、六年ぶりの本山参拝で感慨深い参拝でした。◆度々、寺報でも「行きたい！」と連呼していたので、やっと叶いました。慶びに満ちた法縁を頂きました。